

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 平成30年 8月11日
(70号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局

人間学講座
第69講

「避難所が教えてくれたこと」

浅野仁美先生



■ 主婦目線を活かして

六月に大阪で大きな地震がありました。今西日本でも豪雨による大きな災害があり、連日報道されています。なぜこれほど

多くの方が亡くならなければならない。テレビでは視聴者が撮った映像が流れることがあります。撮る暇があるなら避難してほしい。3・11あの日、私は娘と二階のベランダからつたつて屋根へと逃げました。屋根の上で娘を抱きしめ「大丈夫だからね」と言いながら、絶対この子を助けなければと決意したのです。

避難所(鹿妻小学校)を運営するにあたって、私は専門的な知識もなく、ただ主婦としての思いつきを実践していったに過ぎません。例えば、支援物資としてお願いしたのは「うちわ」「ハエたたき」「コロコロ(粘着クリーナー)」。電源のない場所では扇風機も使用できませんからうちわが役に立ちます。また、当時はハエが異常に発生して避難所内も飛び回っていたのですが、殺虫剤などはアレルギー等人体にも影響があり使用は難しい。しかしハエたたきならそのようなこともありません。コロコロは畳を敷いてからの掃除用に皆さんに配りました。外は瓦礫などが積み重なり常に土ぼこりを上げていてマスクが必要、室内でもマスクの着用が呼びかけられていました。しかし、各自コロコロで常に掃除を始めたため、鹿妻小学校の避難所では咳患者が激変しました。1700人の避難所において、皆が少しでも快適に過ごせるためにはどうすればよいのか。どれも主婦目線で何ができるのかの工夫と実践でした。

■ 避難所が教えてくれたこと

常日頃は他人同士というものは様々な分け隔てを感じ平等ではない思いを持つものですが、震災はものの見事に、平等という状況を作ってくれました。避難所では昨日までは知らなかった人々とも助け合い、許し合い、誰かを毛嫌いすることなどもない生活がありました。我慢することも学び、各々知恵を出し合って工夫することで様々なことを乗り切ってきました。

避難所ではゴミが大量にでます。そのゴミを分別するという手間をかけると回収率が全然違うのです。ゴミの嵩が減るので、倍のゴミが積めるため、回収車は先ず鹿妻のゴミを集めてから、他を廻るようになりました。

避難所に畳を敷き詰めるのは大変な労力でしたが、皆さんの協力を得て進めました。畳の効果は素晴らしく、お蔭で埃が舞わなくなり、またイグサの香りの安心感。何よりそれまでは硬い床に薄いビニールを敷いただけだったので、たとえ数センチのことであっても畳の上だと寝たときに背中との感触も全く違いました。この畳を敷いた日は皆さん熟睡され、咳込む人もいませんでした。

私が避難所でやり続けたことは、「できることをひたすらに」「親身になる」。また不自由な避難生活では不満や愚痴も吹き出します。私はそれらを受けとめ、ときに謝り、「良い悪者」であらうと心がけました。

■ 天災は忘れた頃にやってくる

この六月に防災士の資格を取りました。防災士の役目は「要救助者」ではなく、自分が人を助ける立場であるということの認識を深めました。何より大切なのは、自分の命を自分で守ること。



○ 命を守るための行動

自助…命を守る、避難行動、防災知識、水・食料、必要なもの、家族の信頼

共助…自助の上に成り立つもの、互いの支援、地域、職場、誰かと

公助…自律を目指す、仮説住宅、物の支援、人の支援、心の支援

東日本の震災から七年たちましたが自助に関しては、まだまだ多くの人に根づいていないと感じています。

私の記憶にある最初の地震は宮城県沖地震(1978年)です。M7.4、二八人の方が亡くなりました。犠牲者のうち十八人はブロック塀などの倒壊によるものです。その後建築基準法が変わり、ブロック塀についても厳しい基準となりました。仙台市では当時密着箇所の危険な塀があり、ブロック塀を改修するための補助金を出し、改善に努め830件について改修、補修が終わっているとのこと。三十年以上をかけてコツコツと減らしていったのです。

東日本大震災のとき、あの揺れの中で、三十年経ってあの大地震がきたのか!と思いました。まさかもう自分には地震が来ないだろうという思いは誰しもが持っているかもしれませんが、起きてほしくないとは思いますが、それは「起きない」ことではない。「天災は忘れた頃にやってくる」は寺田寅彦さんの言葉です。

災害に負けない強い心は誰もが持っています。ただ防災、減災への緊張感が続かない。万が一に備えるとは、一万回に一度に備えるということ。残りの九九九九回は無駄になります。避難しても何も起きない。備えていても何も起きない。それもいいのです。九九九九回の無駄を喜んでするということなのです。

(抄録 中川千都子)

《グループ討議》

□ 講師 浅野仁美先生

「避難所が教えてくれたこと」

【Aグループ】

- ① 何といっても自助
- ② 人間には本当の悪者はいない
- ③ 9999の無駄を喜ぶ

【Bグループ】

- ① 家族の協力
- ② 防災に対する備え
- ③ 災害の時には「素」がでる

【Cグループ】

- ① 万が一に備える(99%の無駄の価値)
- ② 自分の命は自分で守る
- ③ 多くの問題は震災前からあったこと

【Dグループ】

- ① 正しいことをやっているのに(強い気持ちをもつ)
- ② いざ!! という時、助け合う気持ちをもつ
- ③ 現実を、ありのままに受け止めることが大事

【Eグループ】

- ① 防災・減災の緊張感に負けない気持ちを持ち続ける
- ② 避難所で「喜んで悪者になる」「辛いからこそ出来ることをする」
- ③ 万が一に備える

9999の無駄を喜ぶ



読書会 (Aグループ)

- ・指導 中川千都子副代表
- ・テキスト 寺田一清篇『ありがとうございます』
- ・進行 山路直美世話人

・素直とは、自然に与えられるすべてのものを、プラスに感受して、無限に無限に喜ぶことです。

・「神さまありがとうございます」と一心に唱えて、感謝三昧になった心が、神さまを直接感じ取れる本心の心なのです。

・「幸せの扉を開く鍵」は、みんなの手に握り締められているのです。それではその秘訣・鍵とは何でしょうか？それは「言葉です」。幸せになりたければ、「ああ幸せ!」「幸せです!」「無限の幸せ一杯!」「……というように幸せという言葉でできるだけ沢 山、断定的に使うことです。

・「今・此処に」与えられているものを、プラスに受けるか、それともマイナスに受けるかによって、その人の運命が良くなるか、それとも悪くなるかが決定されるのです。



読書会 (Bグループ)

- ・指導 細川三郎代表
- ・テキスト 福沢諭吉『賢者の知恵』
- ・進行 北嶋紀子塾生

＊友人を求める

『論語』に「志が違ふものと互いに語り合うことはできない」という言葉がある。福沢は言う。

「世人またこの教えを誤解して、学者は学者、医者、医者は、少なくともその業を異にすれば相近づくとなし」世間の人は論語を誤解して、それぞれの領分に近づこうとしない。十人に会って一人の親友を得たなら、二十人と会えば二人の親友を得るだろう。

＊幸福はどこから

福沢は言う。

「諺にいわく、『災いは下より起る』と」

幸福も下より生じる。

社会の不幸の源は、国民一般が賢いか愚かであるかということにかかっている。災害にせよ幸福にせよ、何事も小さいところから沸き起こる。

＊現実に向き合う

「人間の生死は天命であり人力の及ぶものではない」と福沢は言う。

「昨日の至親(近親者)も今日は無事なり。既に無に帰したる上は之を無として、生者は生者の謀を為すべし」死者に供え物をして祀るのは生きている者の情だが、その情がいかに細やかなものであっても、死者に飲食させることはできない。

昔日を思うあまり、現在をおろそかにする必要はない。

『私の回想と感謝』

細川三郎



天分塾で16年、人間学塾で6年、今年で通算20年。

この歴史ある塾で不肖私が3年間代表を仰せつかり、その間の回想を、感激と感謝の思いを込めて記します。

この塾の歴史は、パンフレット表紙下段に記されています。ご参照下さい。次に、この塾の塾是は表紙の上段に記されています。入塾時には必ず熟読を致しましょう。さて、私がこの塾に入塾致したのは、天分塾第9期ですから、今期で10年が過ぎ去りました。先ず15年前、寺田先生から西区倫理法人会の講話終了後、朝食会での席を同じくした時の話です。

会社はうまくいっているかとの質問中に、会社運営の三大原理を教えて下さいました。それは、

「時を守り、場を清め、礼を正す」これを守れば会社も家庭も安定だと、熱っぽく、よく解るように解説をして頂きました。私はその時以来、今日までこの言葉を会社の経営方針に定め、私の心の宝として大事に守り、実行して参りました。

この第6期終了時、最も嬉しく思ったことがあります。それはこの20年間、この塾で学び続けられた方が2名いらつしやいます。世話人の加藤昌夫様と塾生の橋本美津枝様でございます。

加藤様は現在世話人で、広報委員会を一手にお引受け頂いております。

又、橋本様は今年3月に、愛し合った御主人を9年半介護され、思い出は沢山あるが、生(せい)ある命の限りはやり切ったとの思い出を話して下さいました。この塾にも出席しにくい時もあった。でも、出席すれば仲間の人我がことの様に心配して下さい、良くしてください。お蔭で続けられたと話して下さいました。

加藤様、橋本様、第7期からも私達をお導き頂きますようお願いを申し上げます。

会うは別れの始めと申します。私達が師と仰いだ寺田一清先生、「当塾の顧問」が3月末に岡山へ転居されましたこと。ある面では残念ですが、岡山県倉敷市の土地柄は、瀬戸内の海の幸、陸の果物の宝庫でもあり、温暖な土地柄です。心豊かにお暮らしになりますことを心よりお祈り申し上げます。森信三先生のことば、そして寺田一清先生のことば、一生私達の心の中で生き続け、生きる力になることでしょう。ありがとうございます。又お会いするまで、お元気で暮らして下さいませ。

次に、私達塾生にとつて悲しいことが続きました。この3月に天分塾開設時から今日まで御指導頂きました、西中務先生と突然お別れしなければならぬ事態が参りました。昨日まで、お元気でいらしたのに何故かと、関係される皆様は信じがたいお別れでした。

「おいしい饅頭」は1人で食べるな。こんな講話が心に残っています。西中先生、ありがとうございます。

そして当塾の専任講師の先生にも、変化がありました。開設時から専任講師を受けて下さった鍵山秀三郎先生が体調不良で、木南一志先生をご紹介下さり、鍵山先生のお話しは第4期で終了となりました。掃除道の神様と称せられました先生は、人に優しく接して下さい、講師の中でも最も心に残りました。1日も早い回復を心よりお祈り申し上げます、支えて下さいました方々に、感謝の念で一杯でございます。

私が代表を受ける際、顧問の清水正博様には、ひとかたならぬ御苦労をお掛け致しました。寺田先生との懇談など、先生からの思い、同席して下さい、塾の進め方。我々が先人の学びは多く導入。学びはかまわないが少なくとも森信三哲学は60%〜70%のウエイトを持つて運営すること。これが人間学塾存続の道と教えられました。清水顧問、ありがとうございます。

今実践していること、例会当日12時30分より1日1語のミニ読書会の実施、塾質向上委員会、西村俊幸世話人が担当して下さい、先生役として近藤宏枝様、田中檀子様で学びを深めています。

御指導ありがとうございます。毎回20名前後の学びがございます。時間の許す方は、参加お願い申し上げます。次に塾の決定案件、そして最も大事な会計の件。松本学様には、誰にでも出来ない重要なことをお願いしております。見識のある松本様にしか、出来ないかもしれません。どうか以後もよろしくお願い申し上げます。感謝でございます。

塾生のお迎えは、塾としていつも最高なお迎えをと考えており、山路直美様をお願いしております。持ち前の笑顔と素直な心、そして誰にでも公平であり、教職に身を投じて勉強熱心。その姿は誰しもが好感を持ち、塾の本質・お掃除であり、社会貢献であり、学びでありを一杯実践されています。そのお姿には敬意を表します。

何と言つても塾全体を支えて下さった三役の皆様には、毎月の次月に対しての打合せ、塾生の皆様が今日1日の学びに対して気持ち良く接して頂くための具体的な取り組み、念には念を入れての話し合い。大所高所から運営上ミスの無き様、指導に全力を尽くして下さい、副代表・宮武清寛様、中川千都子様、ありがとうございます。打合せをまとめ、進行のため具体的に取まとめ、指示徹底して下さいました古田修平様、ありがとうございます。

そして塾全体の企画、取りまとめ、事務局をすべて引き受け、対外的な文章と内部の文章等、沢山の文面を「率無く」的確に処置。塾運営に最善を尽くして下さい、ありがとうございます。

支えて下さった方に感謝。第7期からも宜しくお願ひ申し上げます。『卒塾文集』より転載

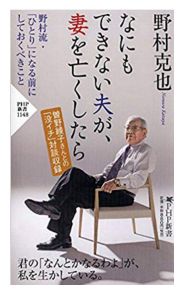
細川三郎様

平素は、気づきや学びに、ご指導戴きまして、誠にありがとうございます。第七期からは常勤顧問として、毎月なご一層のご指導を賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

《お薦め書籍》

『なにもできない夫が、妻を亡くしたら』

野村克也 著



出版 PHP 新書
 頒価 950円(税込み)
 ISBN 13: 978-456940918

昨年末、最愛の妻・沙知代さんが85歳で逝った。普段は財布も持たず、料理もしない「なにもできない夫」が、妻を亡くしたらどうすれば良いのか…。「その日」はどんな夫婦にもやってくる。大切なのは、それまでに「ふたりのルール」を作っておくこと。野村家と言えば、それは「死ぬまで働く」「我慢はしない」「どんな時も『大丈夫』の心意気を持つ」などである。世界にたった一人の妻のこと、45年ぶりに訪れたひとり暮らし…。球界きつての「智将」が、老いと孤独を生きる極意を赤裸々に語られている。

《先哲に学ぶ生き方》

森信三 先生

「幸福の獲得」

まず、自分のなすべき勤めに対して、常に全力を挙げて、それと取り組むこと。第二に、常に積極的に物事を工夫してそれを見事に仕上げる。そして、人に対して親切にし、人のために尽くす——これが、幸福獲得の秘訣でしょう。

森信三

「運命を創る一〇〇の金言」より

《人間学塾・中之島》

■ 第7期 「入塾式」

*日時 9月15日(第三土曜)

*場所 大阪大学中之島センター

10F 佐治敬三ホール

*卒塾式

開式 午後0時30より

午後3時

別紙式次第に準ずる

*交歓会

開始 午後3時より

午後5時

■ 卒塾文集「なかのしま」原稿寄稿

ありがとうございました

みなさま方のご協力と発憤のおかげをもちまして、ここに、第六期卒塾文集「なかのしま」が刊行いたしました。

みなさまそれぞれに、「学びの非日常空間」で一年間の学びを、振り返られた思いを綴ってくださいました。

◆ 発行

8月11日(卒塾の日)



《インフォメーション》

◆ 第七期塾生募集案内

・みやちゅう新聞に掲載

8月6日 二梓(募集案内Ⅱ詳細掲載)

・口コミ募集

学塾・中之島は、塾生のみなさま方の口コミによる新期の入塾が、約70%になります。よってみなさま方の口コミを頼りに致しておりますので、知人友人の方々へ積極的なお誘いを宜しくお願い致します。

・道縁読書会への募集案内送付済み

人間学塾・中之島

第七期 登壇講師

- ◆ 常任講師
 - 上甲 晃氏 (志ネットワーク社代表取締役)
 - 横田南嶺老師 (臨済宗円覚寺派館長)
 - 木南一志氏 (株・新宮運送代表取締役)
- ◆ 実践講師
 - シスター 鈴木秀子氏 (聖心女子大学教授を経て、国際コミュニケーション学会名誉会長)
 - 中桐万里子氏 (国際二宮尊徳思想学会常務理事)
 - 松岡 浩氏 (「タニサケ塾」主催)
 - 石川真理子氏・池田整治氏、他一流講師陣

塾生の・塾生による・塾生のための塾
第七期 塾生募集

＝「共に学びましょう」 随時入塾受付＝

- 塾生
- 森 信三先生をはじめとした先哲に学ぶ
 - 日常生活の細事を軽んぜず、徳行に努める
 - 心願以て万事の源と為し、手本となる人間を創る

- ★ 開講 2018年9月～2019年8月 (11月・3月宿泊研修)
基本 毎月/第二土曜日(会場の都合にて変更有り) 午後1時～午後5時
- ★ 会場 大阪大学中之島センター(佐治敬三ホール)
大阪府北区中之島4-3-53

- * 問合せ先 人間学塾・中之島 事務局 宮本
- Tel 0736-38-3669 Fax 0736-38-3680
- メール mm3724@skyblue.ocn.ne.jp

詳細はホームページにて
 人間学塾・中之島

※ みやちゅう新聞に、募集広告掲載しました!!

お一人でも多くの方々の

入塾へのご勧誘を、お願い致します!!

※ 継続入塾申込は、お済みですか??

「非日常空間」で、

共に学びましょう!!

お待ちしております!!